

# グリンプラン

青々とした牧草が紺碧の空と対照的に伸び伸びと丘陵に林野の間々に草地が見かけられ、昨日の原野、荒廃地は畜産県民の手によって次ぎ次ぎと地目を変えつつあります。またこれらの草生は収穫量においても3,000kgから6,000kgと集約的に、栄養価値の高い飼料が得られるようになり、酪農の振興と併せて長期安定した経営をいとなむ基盤として、草地農業が急速に進められ、自給飼料の確保、ことに、家畜の飼養形態の改善面から、これ等牧草が大きく取り入れられるようになり今や注目の的となっています。牧草は家畜の嗜好性に富み、栄養価も高く、再生力が強く、単位面積当りの生産性も極めて高い点等から本県は他府県に先んじて飼料作物のなかでも特に意をそそいできたのであります。

昭和27年岡山県勢振興計画に続いて昭和29年末には豪州より乳肉兼用種であるジャージー種が美作地域に導入され、古来、この地域は馬産地（蒜山地区）で昭和初年より和牛の生産地帯に移行した地帯で前惣津課長の英断には、さぞかし農民はもとより多士済々の指導者方も肝をつぶしたことと思う。

今にして思えば広大な土地資源を効率的に利用し、蒜山地区を始め、乳牛に対する知識の低い地帯において毎日新鮮な乳香を学童をはじめとして老若男女の区別なく味、一方においては営農形態が改善され、山間酪農すなわち、草による酪農が推奨されたことによって現在県下27ヵ町村1,030haの高度集約牧野が造成され、また既耕地による飼料作物の栽培と相俟って自給飼料の増産が着々と図られつつあります。

また草地造成を容易に的確に遂行するため昭和31年には機械化（トラクター等）の整備充実を図り昭和34年には大規模草地（蒜山地区）の造成計画、酪農経営改善地区の設定および肉畜振興計画をみるや一早く「グリンプラン」による飼料計画の立案、さらに待望の草地係の設置等幾多困難なる悪条件を排除しつつ、県民のなっとくのゆく施策を次々と遂行された惣津課長の偉大なる手腕と包容力による業績は永遠に畜産県民の脳裏に深く継承されることであろう。

## 一. 「グリンプラン」の概要

草資源の造成改良は、畜産ことに酪農、肉畜の振興計画推進の基盤であり飼料供給源の確保と土地利用の高度化促進のため最も重要な施策であり、本県は幸にして草資源に恵まれ既存牧野50,851haを有しているが草生状況は量、質ともに極めて低いのが現状であります。従って、これらの劣悪なる牧野を改良して昭和40年度には高度集約牧野6,000ha、小規模牧野500ha、大規模牧野500ha、改良牧野3,000ha計1万haを確保すると共に既耕地による飼料作物の生産を増強して、自給率80%の飼料の増産態勢を確立し、以て農業経営の安定合理化は勿論家畜の増産並びに低廉な畜産物の生産を助長するために重要施策として積極的に草資源の増産を図る。

牧野改良計画目標（昭和40年度計画）

区 分	頭数及び 計画面積	備 考
乳 牛	50,000頭	
和 肉 牛	26,000 "	
牛 繁 殖 牝 牛 育 成 牛	81,724 "	
牧野改良計画	10,000ha	
高度集約牧野	6,000 "	障害物除去, 起土整地, 土壌改良, 牧草導入
小規模草地	500 "	"
大規模草地	500 "	" (国の計画による)
改 良 牧 野	3,000 "	障害物除去, 牧柵, 土 壌改良, 庇蔭樹の植栽